

自主夜間中学「えんぴつの会」は、廃校となった東京のとある下町の小学校で今日も授業を行なう。正式な学校ではなく、退職した教師らがボランティアで教えている。そこへ週に2回ほど通っている79歳の女性は、戦争のせいで小学校に通えたのは2年生までで、漢字は読めても書けなかった。縫製の仕事が忙しく、さらに結婚し出産。必要な書類への記入などは夫と息子に頼み、学校へ行く夢は叶わないかに見えたが、64歳の時に“同校入学”。「初めて日記を書いた時が一番嬉しかった」そうで、今では嬉々として難しい漢字も書く。

夜間中学一筋で、山田洋次監督の映画「学校」のモデルの一人にもなったという同校の先生である見城慶和さんは、「皆さんの目が輝いているでしょ」と笑う。学びたい人は年齢や国籍を問わず誰でも入れる。中国人も韓国人も、いじめられて学校に行けずに卒業証書だけもらった若者もいるそう。周知のとおり、小中学校の不登校12万人、高校中退6万人。「まるでリニアモーターカーだ。ついていけない人は再び乗れないのか？」と見城さんはいぶかる。

彼が若い頃、タケさんという家が貧しく、子守で学校に行けなかった生徒がいた。53歳で初めて年賀状を書いたというタケさんが卒業時に書いた作文が胸を打つ。「ずいぶん年をとってから、私は私の乗れる汽車をみつけた。それは夜間中学校という鈍行列車。」 取り返しのつかないことをしでかした人、人生がメチャメチャになった人、毎日が急がしい人や疲れた人に対し、福音の列車は、いつでもどこでも誰にでも無差別・無制限に運行されている。

「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛して下さったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。」エペソ人への手紙 2章 4-6節、

という聖書の言葉どおりに。

2015-9-4

